

[平成28(2016)年10月6日]

日本経済新聞

オプジーボ値下げ

抗がん剤、来年度最大25%

中医協合意

厚生労働省は超高額のもる。

抗がん剤オプジーボの価格を2017年度に臨時で引き下げる。5日開いた中央社会保険医療協議会（中医協）で大筋合意した。オプジーボは1年間使うと、1人あたり約3500万円かかる。最大で25%引き下げる方向だ。18年度には超高額薬の価格を見直しやすい制度を導入し、公的医療保険財政の膨張を抑え

厚労省が想定以上に売

れた高額薬の価格を引き下げる既存の仕組みをオプジーボに適用すると提案した。中医協の委員から目立った反対意見はなく、今後は引き下げ率を議論する。薬価見直しは原則2年に1回。次は18年度の予定で、臨時改定は異例だ。オプジーボは14年に悪性黒色腫（メラノーマ）

の治療薬として初めて保険を適用。推定患者数が470人と少なく、高額な薬価を設定した。

15年末に推定患者が1万人を超す非小細胞肺癌にも保険適用し、医療費膨張の懸念が浮上。中医協の委員からは「最初に肺がんに保険適用されたら（価格は）どうだったか」「見直しは当たり前」などの意見が出た。今後とも技術革新で高い

効果が期待でき、価格も高い新薬が相次ぎ登場する見通し。厚労省は臨時改定は今回限りとし、18年度に抜本的に薬価制度を見直す。保険適用の病気を増やした際に価格も見直す案が浮上する。